

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 055	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題名 ツキノワグマの人里出没要因に関する研究	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 昨年度、県内各地域でツキノワグマの人里へ頻繁に出没し、果樹等に執着する状況が発生した。当課は、県のマニュアルに基づく対策の一環として、地域県政総合センターからの依頼により学習放獣を行っているが、あくまで危険回避のための緊急的対応であって、根本的な解決とはならない。 数年おきに発生するツキノワグマの人里出没は、餌となる植物の豊凶や広域を移動するクマの行動特性に加え、集落周辺の放置果樹の存在や身を隠すことができる藪化した耕作放棄地、嗜好性の高い果樹・作物といった誘引要因や、本来の生息地である森林の植生変化といった生息環境面の要因が複雑に絡み合っており引き起こされている可能性がある。 このため、県の農政と林政と環境行政の各部門と、市町村、地元関係者が一丸となって対策に取り組む必要があると思われるが、現段階では、対策を検討するための基礎的な情報が欠落している。 そこで、農業技術センターと自然環境保全センターが、農業普及、鳥獣被害対策、野生動物保護管理、森林管理等の事業を担当する各事業課と連携し、市町村等の協力も得ながら、里側の誘引要因と山側の生息環境の質に関する詳細な調査研究を行うことを要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 ツキノワグマの人里への出没についてはご指摘のとおり、耕作放棄地や栽培作目の誘引要因と、生息地の植生変化が影響しているとされていることから、関連する行政機関および生産者、農協が連携し、情報収集と対策に当たる必要があると認識しています。 湘南、県央、県西地域では、鳥獣被害対策チームが発足し、被害状況調査や対策の普及啓発に取り組んでいます。農業技術センターからは、鳥獣害分野の農業革新支援専門員および地域の普及指導員がチームに参画しており、今後も被害回避に係わる栽培技術指導や被害調査への協力等、普及部門をとおして支援してまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			